

一茶酌の先を盆のひらに置、先をば前の縁より外へ五歩も出して置事も有、出さぬ事も有、又茶酌に寄て茶入の前に横に置事も有、又茶入の右の方の縁の外へ柄エツキ先出事も、有口傳有師傳を先大體は茶入の右の脇、外のふちより五歩計もえさきを出して置也、茶巾は水差のふた置時の次第上に有り、

一茶釜は初はひしやくのえさき疊のへりとの間に置いて、湯を汲入、茶碗をとうし、茶釜茶巾の事は前に見へたるごとし、扱茶入を右にて取左へ預右にて茶酌を持たながら茶入の蓋を取、盆の前の縁ぎわに置、茶をスグ撮也、略○中

一盆點に色々様々の大事口傳習有る間、猶師傳を可受也、貴人高位などへは、臺天目にて盆點又は二ツ茶碗、又茶入などと云事、大體の分也、

一盆に不乗して、から物あしらい様有、右の盆點の時、茶酌を盆なければ常の如くに致す計にて、萬事同前也、

盆點に付て古風より式目は、先茶釜入を取出し、其座に置、茶酌か茶釜の右の方へ取直して置、柄杓を茶釜の右の方へ取直して置なり、

一柄杓を右にて取常のごとく左に持、引切を其座に置いて、釜の蓋を取、茶碗へ湯を汲入、釜の蓋をして、ひしやく引切に置、

一茶碗をあたゝむる間に、茶入袋さばき、其外の仕舞をする也、是式正の下の内の上の手前也、總而右に云事は、盆點當時の八段の中に、常に侘人の手前也、貳つ肩とて、茶入と茶碗とほう盆に乗置、茶點候事は、八段の内の下の中の手前也、

〔茶之湯六宗匠傳記四〕名物之茶入盆だて之事

一名物ニ云、公方様御物なげづきんか、あきの守殿之侘助か、小堀遠州之在中庵など、云世に名